



# 家畜衛生だより



令和6年度26号(鶏) 令和6年11月発行

中央家畜保健衛生所・中央動物防疫協議会  
〒262-0011 千葉市花見川区三角町656  
Tel: 043-250-4141 (夜間・休日対応)  
Fax: 043-286-0090  
(公社)千葉県畜産協会



## 岐阜県、鹿児島県の農場で 高病原性鳥インフルエンザ発生！(国内家きん9、10例目)

### 【9例目】

所在地：岐阜県本巣市

飼養状況：約1.5万羽(採卵鶏)

経緯：

11月18日

農場から、死亡羽数が増加している旨の通報を受け、県が立入検査を実施。簡易検査で陽性を確認。

11月19日

遺伝子検査の結果、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認。

### 【10例目】

所在地：鹿児島県出水市

飼養状況：約1.2万羽(採卵鶏)

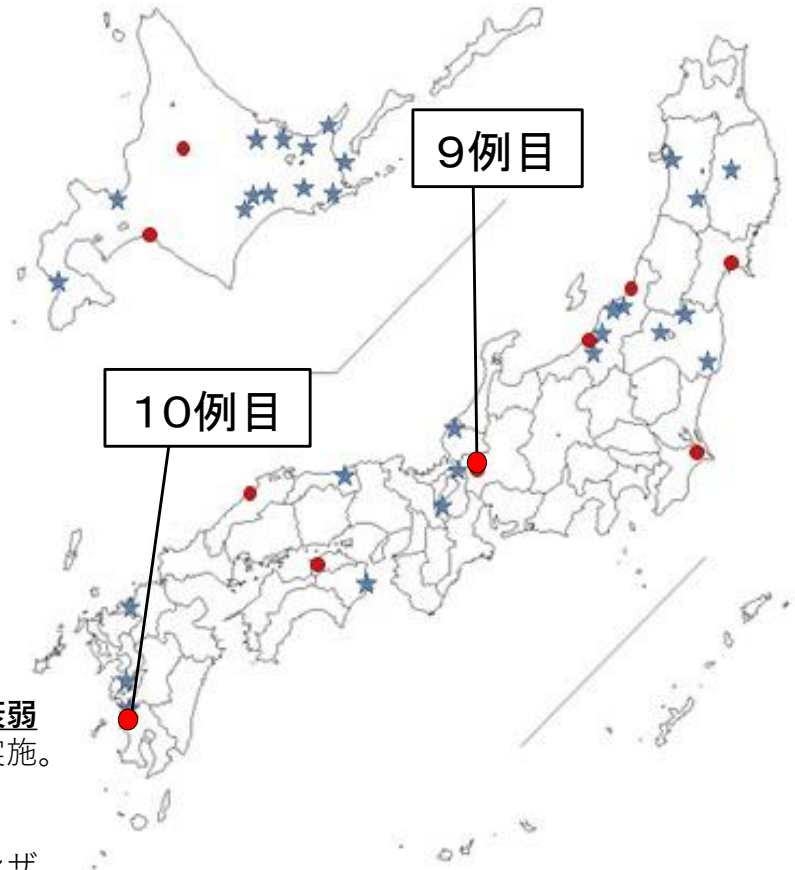
経緯：

11月19日

農場から、**まとまって死亡及び周辺の鶏も衰弱**している旨の通報を受け、県が立入検査を実施。簡易検査で陽性を確認。

11月20日

遺伝子検査の結果、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認。



(参考) 農林水産省HP  
令和6年11月20日現在



### 衛生管理・防疫対策を徹底し、農場を鳥インフルエンザから守りましょう！！

- ❑ 衛生管理区域に立ち入る者の手指消毒等
- ❑ 衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用
- ❑ 衛生管理区域に立ち入る車両の消毒等
- ❑ 家きん舎に立ち入る者の手指消毒等
- ❑ 家きん舎ごとの専用の靴の設置及び使用
- ❑ 野生動物の侵入防止のためのネット等の設置、点検及び修繕
- ❑ ねずみ及び害虫の駆除

千葉県中央家畜保健衛生所 TEL 043-250-4141 FAX 043-286-0090

※急性悪性家畜伝染病(高病原性鳥インフルエンザ等)の早期対応のため、疑わしい症状があれば速やかに連絡してください。

※夜間・休日は転送されますので、必ず5回以上コールしてください。



# 正しく消毒できていますか？



## ～低温下での消毒～

逆性石けん（アストップ、パコマ、ロンテクト、パンパックス等）は低温下で消毒効果が著しく低下し、凍結の恐れもあります。以下の対策を参考に、適切な消毒を行きましょう。

### ●アルカリ剤の添加

**逆性石けんに消石灰等のアルカリ剤を添加**すると、低温下でも消毒効果が維持・増強されます。

**粒子径の小さいマイクロ水酸化カルシウム**を使ってください。

粒子径の大きい水酸化カルシウムでは、添加しても十分な相乗効果が得られません。

推奨粒子径：10μm程度以下 推奨濃度：0.17%

消毒薬作成例：水	1 t
逆性石けん（×500～×1000）	1～2 L
水酸化カルシウム	1.7 k g

使用場面例：動力噴霧器による車両消毒 ※1  
 オールアウト後の鶏舎消毒  
 資材（輸送かご、卵トレイ）や衣類の漬け込み消毒 ※2、3  
 長靴の踏込消毒槽 ※2、3

#### 〈注意点〉

- ※1 アルカリ剤の効果で配管内に蓄積されたヘドロが剥がれてノズルが詰まる事があるため、一度ノズルを外してヘドロを除去しましょう。
- ※2 糞便等の有機物があると、消毒薬の効果が低下してしまいます。必ずきれいに洗浄を行ってから消毒しましょう。
- ※3 長靴は3分間、衣服は30分間以上の漬け込みが必要です。

### ●凍結防止対策で不凍液を添加

低温下で消毒薬が凍結する場合は、**動物用消毒薬に使用可能な不凍液等を添加**しましょう。

今シーズンの高病原性鳥インフルエンザ発生状況は、過去最多の発生をみた令和4年シーズンに匹敵するペースで発生していることから、令和6年11月21日に「鳥インフルエンザ防疫対策緊急全国会議」がWEB形式で開催され、江藤農林水産大臣からのメッセージが提示されました。

#### 【 大臣メッセージより抜粋 】

- ① 危機感の共有：「自分のところに来ても全くおかしくない」「来るぞ」という覚悟を持って。
- ② 現場の隙間、隙を埋める：飼養衛生管理のレベルを一段上げる。
- ③ 再点検：もう一度再点検。何度点検しても十分ということはない。
- ④ 発生しても周りに伝播させない、拡げない：地域に拡げないことが最重要。

とにかく防疫対策の徹底をお願いする。緊張感を持って御対応いただきたい。

（農林水産省HP：[https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku\\_yobo/241121.html](https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/241121.html)）

## 今シーズンの特徴まとめ

- ウイルスの状況
  - ✓既にウイルスは全国に分布（全国の野鳥や環境水から検出）
  - ✓特に水きん類は無症状で広く感染拡大している可能性が高い
- 発生農場の特徴
  - ✓10例中3例が令和4年シーズン発生農場での再発
  - ✓既発生農場や既発生地域では特に発生リスクが高いことを認識
  - ✓飼養衛生管理の水準が比較的高い農場でも発生
  - ✓野鳥感染未報告地域でも発生
- 環境中には多くのウイルスが存在、全国どこでも高い発生リスク
- 特に農場密集地、既発生農場

## 今後の主な対策

- 飼養衛生管理基準の遵守（衛生管理区域入場時の靴・衣服交換等の徹底）
- 野生動物対策
  - ✓野生動物が来ない環境作り
    - テグスの利用等農場内での野鳥対策、周辺水場の水抜き等、餌こぼれ、実のなる樹木、ネズミ対策、死鳥保管、廃棄卵、水場、田圃の二番穂、整理整頓など
  - ✓野生動物が家禽舎内に入れない環境作り
    - 防鳥ネット、バーコンシャッター、除糞ベルトの蓋、壁の穴や隙間対策など
- 一步踏み込んだ塵埃等への対策
  - ✓鶏舎周辺の散水・消毒、入気口のフィルター、細霧装置の設置など
- 特定症状に限らず、僅かな異状でも速やかに家保に連絡